

今週（11月26日から11月30日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、特段イベントもなく、先週に引き続き週を通して落ち着いた取引となった。日銀当座預金残高は390兆円台前半と高水準で推移。無担保コールO/Nの取引レートは、地銀業態は▲0.086～▲0.050%の幅広いレンジで、都銀・信託・証券業態は▲0.086～▲0.080%で、散発的な出会いが見られ、月末にかけて調達ニーズが弱含む展開となった。そうしたもとの、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.070%台前半と、低水準で推移した。月末かつ週末となる30日は、ビッドサイドが減少した影響で、加重平均レートが多少上昇した。ターム物に関しては、1・2Wのショートターム物で、▲0.040～▲0.035%で散発的な出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは30日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,855億円（期落ち額1,462億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、週初はレート低位での取引だった。資金調達サイドが消極的で、▲0.17%程度が出合いの中心だった。週の後半にかけては、年末越えの玉手当に一服感が見られるようになり、足元の玉不足もやや解消され、レート上昇基調となった。週末にかかる月末初の取引は、事前にはレート低下を警戒する向きもあったが、出合いの中心は▲0.13%程度で、レートは上昇した。GCターム物は、足元レートの推移や、年末越えの需給動向を反映し、週前半は1Wから年内物で▲0.18%程度、2～3Mで▲0.17%程度と低位のレート気配だったが、週後半には甘くなり、年内物で▲0.14～▲0.11%程度、2～3Mで▲0.16%程度の気配だった。

SC個別銘柄では、10年340番台から350番台、5年の126、127、131などにビッドが目立った。また、リオープンとなった40年債は、入札前日はタイト化したものの、比較的落ち着いた取引だった。

●短国市場

今週の短国市場は、年末越えの動きが一服し、全般的に閑散な中、小甘い展開となった。

27日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額が少額にとどまる中、按分落札利回較差+0.020%、平均落札利回較差+0.045%と在庫調整の売りからか弱い結果となった。

30日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.20～▲0.19%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1991%、按分落札利回▲0.1712%と前回債からレートは上昇し、按分レートが流れる結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、先週に引き続き幅広い業態で大型案件が相次ぎ、11月末の発行額は1兆3,000億円程度と、月末日発行として今年最も多かった5月末の1兆4,000億円程度に次ぐ盛り上がりを見せた。週間償還総額1兆4,700億円程度に対して、発行総額は2兆5,000億円程度と大幅な発行超となった。発行残高は、29日時点では19兆5,000億円程度まで膨らんだ。企業のこうした積極的な発行姿勢の背景には、好調な業績を反映して、法人税の支払いや中間配当、12月の賞与等により資金調達ニーズが高まっていることが推測される。一方で、発行レートのレンジは横ばいで、大型銘柄は0%近傍、稀少銘柄はマイナスで買われている状況が続いている。これは、発行量が拡大してもなお、投資家のキャッシュ潰しのニーズが満たされていないためと考えられる。

27日には、CP等買入オペが2,000億円オファーされた。結果は平均落札レート0.002%、按分落札レート▲0.002%と共に前回（平均0.001%、按分▲0.004%）から上昇する結果となった。月末発行を控え、予め保有玉を整理しておきたいという思惑から、参加者のレートの目線が上昇したと見られる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
11/26（月）	21,812.00	0.085	113.25	△ 0.070	△ 0.162	3,902,000
11/27（火）	21,952.40	0.085	113.50	△ 0.073	△ 0.165	3,911,400
11/28（水）	22,177.02	0.095	113.80	△ 0.070	△ 0.160	3,907,000
11/29（木）	22,262.60	0.080	113.27	△ 0.072	△ 0.166	3,909,700
11/30（金）	22,351.06	0.085	113.43	△ 0.062	△ 0.114	3,912,900

## 来週（12月3日から12月7日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
12/3 (月)	7-9月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)			10月の米建設支出 11月のISM 製造業景況指数
12/4 (火)	11月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y 22,000億円 12/5発行		
12/5 (水)	新潟県金融経済懇談会にて若田部副総裁講演 12月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 12/13借入		米ページブック 11月のISM 非製造業景況指数
12/6 (木)		TB6M 23,000億円 12/10発行	流動性供給 5,000億円 12/7発行	10月の米貿易収支 10月の米製造業新規受注・出荷・在庫
12/7 (金)	10月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) 11月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 10月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	TB3M 42,700億円 12/10発行	エネルギー 対策借入 5,500億円 12/20借入	11月の米雇用統計 10月の米卸売売上高 10月の米消費者信用残高 12月のミシガン大消費者信頼感指数速報 7-9月期のユーロ圏GDP確報値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/3 (月)	▲ 400	▲ 41,700	▲ 42,100	国債買入 全店共通 CP買入 成長基盤 国債補完		7,200 1,900 4,100 2,600	7,300	▲ 34,800	TB3M発行▲42500償還36000 2Y発行▲21000
12/4 (火)	▲ 1,000	▲ 72,000	▲ 73,000				0	▲ 73,000	税揚げ 年金保険料揚げ 交付税借入▲10500償還10500
12/5 (水)	▲ 1,000	▲ 18,000	▲ 19,000				0	▲ 19,000	10Y発行▲22000
12/6 (木)	▲ 2,000	4,000	2,000				0	2,000	
12/7 (金)	▲ 3,000	2,000	▲ 1,000	CP買入		2,000	2,000	1,000	流動性供給▲5000
週間合計	▲ 7,400	▲ 125,700	▲ 133,100	—	▲ 5,900	15,200	9,300	▲ 123,800	

12/3は日銀予想、12/4以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、4日に税揚げと年金保険料の揚げがあり、大幅な資金不足が見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは引き続き低水準での推移が続くと見込まれる。レポ市場は、GC取引は、積みの後半にかかることもあり、調達希望が厚くなることも考えられるため、レートの上昇基調が続くか注目される。短国市場は、12月6日に6M物、7日に3M物の入札が実施予定となっており、軟調地合いの中、落ち着きどころを探る展開が予想される。CP市場は発行残高がどれだけ伸びるかが注目される。4日にはCP等買入オペが2,000億円で予定されている。

主要なイベントとしては、海外では5日にページブック、7日に米雇用統計の公表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお選する書面や目録見書をよくお読みください。